

號 輯 特

皇謨深遠

奉祝天長節



けふは畏くも御聖文武に亘らせ給ふ今上天皇陛下には寶算第三十六歳の御誕辰を迎へさせらるる國民慶賀の佳日である。今、静かに筆を擱き、雙眸を擧げて帝國の前途に放てば連延たる長程の遙かに峯巒の起伏に富むの情を觀取する耿々たる一片の憂心を抱いて直立し、襟を正して今日の佳き日にこそほぐ聖壽の萬歳、更に御尊影を拜し奉れば自ら感奮興起、愛國の至情勃然たるを覺ゆる。

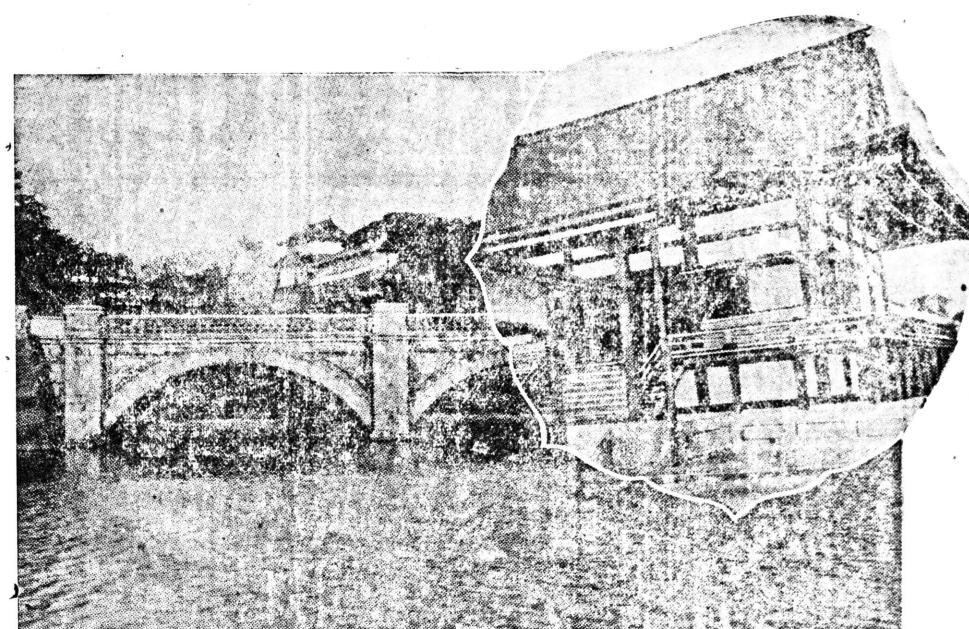
今上陛下の蘊蓄深い御知識、その犀利なる御觀察は、万邦無比の我が國體の精華により更に他邦の長を探り、明治維新の皇謨を恢弘し、國運の隆昌を期し世界文化の發展に資せんことを仰せられてゐる。

謹んで按するに今上陛下の御天業は決して日本一國に限られた御經綸ではない、世界人文の完成に參せんがため

に先づ日本自體を益々聖化し、益々美化して、巍々蕩々たる祖宗の御遺訓に副ひ給はんとするのである、思ふて茲に至れば我等も亦國民として祖國に對する責務の重且大なる事を痛感するものである、今や世界は未曾有の難局に會し、海縮會議決裂後は各國共に建艦を競うて國防の完璧に當り、極東また滿洲國境に風雲暗し、恭みて惟みるに今上陛下には聖德愈々隆く、玉體益々御健やかにこの多事多難の重大時機に際し夙夜万機を御親裁遊ばされ、内に文教を布き國體の明徴に聖意を注がれもつて國民の安寧と幸福を圖ることに専念し給ひ、外は世界の大勢に順應し、國威を萬代に伸張し給ふ、我等一億蒼生にミつて、これ以上の歡喜と感激と幸福ではない、謹みて茲に我が皇運の無窮と竹の園生の彌榮えまさんことを祈りつゝ、遙か皇天を仰き奉祝と感謝の誠意を捧げ奉るものである。

一、今上陛下と明治天皇

聖徳の片鱗



今上陛下は、明治天皇に似てたまことの多きは、國民齊しく感激申上ぐるところあります。御半纏を着ねたまふ毎に、益々相似させたまひ、その御眉、御眼、御口許、御首を聾めし、殆んど御同様に申します。その凜然たる御英姿を仰ぐる所、國民は更に欣然と力強きを覺ゆるものであります。拜謁を賜ひたる、外國の臣民はその眞逆はさらるるに威服して、明治天皇の御再来であらせらるるまで、御詔勅申上げ居るさまであります。

二、御運動

今上陛下は、御運動には特に御注意あそばれました。かくて馬術に、水泳に、角力に、或はゴルフに、テニスに、いろいろと何でも御熟達であります、就中馬術は御美藝と申上げて、特に御詠古なれ、御父陛下に御劣りなき馬術名譽を有せられます、更に水泳に至りましては、水中の妙技を御修得あらせられ、踏水術なども御練習あらせられて、立泳のまゝ、御身姿を水上に出され、歩兵銃と五段打ちになるの妙技を有せられます、御立泳も海上三里位は御飛勢な岸せず、御小遊の御航海に當り熱帶海域及赤道下御通過としても、艦上角力御見には一回の御休息なく、反つて供奉員を激励されました位でありました、しかし何運動にも漫然とあそばされることがなく、何れもその術を御研究したまふのであります

生物學の御研究

言切の長團師堀！脇断



今上陛下は、東宮にまします御より科學に御好んでおられました。そこで市民主の肺病を研究して、市民の肺病を創立いたしまして、その研究の餘暇を以て、通常御學課の餘暇を割いて、主として魚貝、禽獸、或は一部昆蟲類の蒐集に御堪能あらせられました。そのため廣く山川河津を御涉獵されたら、斯學者を凌ぐる學識を成績させられました。御詔勅申上げ居るさまであります。

此時だ 突如「××隊の諸士に血沙を絞るやうな聲だ、鷹を斷」して見る。恰度四時二十五分！

南都總町一帯の情勢緊迫の空氣愈よ濃厚となつた。二十九日拂曉、赤坂方面に出动し、記者に異常なる詰問と極度の緊張裡にはしなくも成程の最初に取り残され、日本國民として生涯忘却得ぬ感激のひとときを経験することが出来た。以下は、その驚きと感動の一部である。(般叢司令部檢閑齊)

「和平武力」をもつて叛徒を鎮壓すべし」の號令が戒嚴司令部から發せられる。恰度午前三時半頃まで、怡威令が戒嚴司令部から發せられる。怡威令は、第一師團尾崎中將の監督の下に、その汚名を洗い出さうとする師團長の悲劇的な叫びが赤坂見附附近に揚げられる。ついで、怡威令は、第一師團の調査機から一句彈丸のやうに飛び出して来る。怡威令は、天皇陛下に盡す忠誠の歴史的使命も殆んど同様に申します。その凜然たる御英姿を仰ぐる所、國民は更に欣然と力強きを覺ゆるものであります。拜謁を賜ひたる、外國の臣民はその眞逆はさらるるに威服して、明治天皇の御再来であらせらるるまで、御詔勅申上げ居るさまであります。

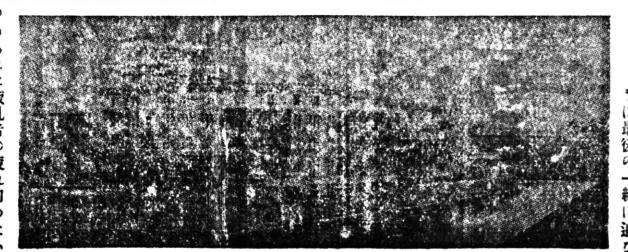
二、二六事件

「肅然・歸營のラツバ」

凍る暁暗を衝いて

山王・死闘の劇的シーン

は眞寫
長團師堀=上
部令司嚴戒=下





△政治と文學とのいづれか
△政治と文學の違いを取るべきか

(十三面へつづく)



文學者 の目的

政治家との區別

美耶子生

△文學者が政治家を認識するのには、下劣な陰性のものと今はさきめく文學詩家杉山平助はいふ、

「高位官僚」の權力的勢力をいふ

やうなの問題にせのところに

文學者が政治家を認識するのは彼等の人間の本質を見らからである

無形なものを見ら、特別な眼をもつてゐるからであるだから、この

心地。文學を知らぬ輩には解しに

て平然としてゐるが、かれ等な

ある。敢て頭がいいからさいはす

△政治と文學の違いを取るべきか

△文學の讀美
苦痛は命の確認
苦痛は命の確認

△文學の讀美
苦痛は命の確認
苦痛は命の確認

三面記事を愛する心 芝 杏 三



節長天祝奉						
崎山善五郎	内外雜貨商	内外雜貨商	内外雜貨商	上出洋服店	堀本科醫	奉祝

新垣商店	喜名樽	松浦商店	上出豐義	堀本科醫	Casa Tokio de Pedro Tanaka
ソロ線ブレシアンテ・ウエンセスラウ	ソロ線ブレシアンテ・ウエンセスラウ	ソロ線ブレシアンテ・ウエンセスラウ	ソロ線ブレシアンテ・ウエンセスラウ	ソロ線ブレシアンテ・ウエンセスラウ	ソロ線ブレシアンテ・ウエンセスラウ

節長天祝奉	節長天祝奉	節長天祝奉	節長天祝奉	奉祝天長節	日本人民會
内 外 雜 貨 商	喜 名 樽	内外雜貨商	上出 豐 義	堀 本 科 醫	ソロカバナ線ヨゼ・オドロ

南彌助	石橋洗濯所	平田靴店	山田藥局	杉杉商店	HOTEL YUWAI
ソロ線ブレシアンテ・エビタシオ	ソロ線ブレシアンテ・ウエンセスラウ	ソロ線ブレシアンテ・ウエンセスラウ	ソロ線ブレシアンテ・ウエンセスラウ	ソロカバナ線ヨゼ・オドロ	ソロカバナ線ヨゼ・オドロ

△政治と文學の違いを取るべきか

△政治と文學の違いを取るべきか</

産業組合 中権機關 新 吉



吉

「近頃

産業組合の事

合でござる。

ソチで

論せら

がア

大體アラカルムに於ける邦人産業組

合に於ては、此方面に専門的知識

が多額の補助金までもが無意味に

して産業組合を設立させたが

「佛作つて魂入れず」

「いかご見だされ

れ

「どんなお見つて、そう漠然と云

はれても困るが……」

「今更その要、不要論なんかを聞

こうつてんぢやないんだが、一体

組合に對する根本的教育を指導

が必要であり、而もそれは實地經

験から帳簿整理等の實務指導にま

たが第一の問題だ。それには現在

の少い昨日までの百姓が烟から出

て来て、その經營に於けるのだから

現の様に地方各組合が何等の連

絡統制もなくしてんにズボラな無

方針の經營、無智な經營を續行さ

せてゐたら、産業組合事業の發展は

まだたく産業組合主義の使命は

「然し君は今、現在の中央會は無

力で何も出来ない」と云つて居た

やないか」

「そう、現在のままの中央會では

だめだ、そこで先づ中央會の強化

を以て、その問題だ。それは現在

のやうに中央會が地方組合の出資

金においてして事業資金となり

経費にあてて仕事をして居るやう

な様に中央會を強固なものに育

てあげる爲めに力を入れ、資金を

出すのつたらいいぢやないか。

そうして、凡てを安心してまかせ得

る様に中央會を堅固なものにして居

事等がかけたのである。そこで仕事

を誤設として監督して居ればよく

はないか。

「それで解つて居る、それ等の目的

を遂行せしむる爲めに中央機關を

して中央會が云ふものが設立された

のではないか」

「それで等をする爲めに中央機關を

して中央會が各組合をして仕事

をなする組合をなして居るやうに

な様に中央會自身に強大な基

力を持つて、中央會の強固な基

